



日吉の丘

2003年9月1日・第4号

函館ラ・サール高校同窓会
函館市日吉町1丁目12-1 ☎0138-52-0365

<http://www.hakodate.or.jp/school/la-salle/>



(校舎全景)

2003年度同窓会総会 役員改選、新会長に齊藤裕志氏選出

(副会長=5期生)

新しい時代に新体制で挑戦誓う

去る8月9日(土)午後6時より、ホテル函館ロイヤルにおいて、当函館ラ・サール高校同窓会2003年度総会が開催され、昨年8月以降の1年間における事業活動、会計の夫々報告が行われた後、規約に則り役員改選が行われ、新しい役員が決定しました。

当日は、大型台風10号の余波で朝から生憎の雨模様となり、総会への参加を見合わせる会員もおられるのではないかと懸念されましたが、総会開始5分前には、予定人員の80名近くが会場に集まり、心配も杞憂に終わりました。

始めに、渡辺会長、名誉会長(校長)が挨拶、次いで恒例の定年退職教員への記念品贈呈が行われました。今年の対象者は星川郁哉先生1名でした。

この後、議事に入り、菅野事務局長が事業活動を報告しました。当該年度最大の事業は5年に1度の会員名簿の作成で、7月中旬に完成、購入希望者に配布したことが報告されました。同窓会の目的は会員相互の親和向上であり、そのために同窓会名簿は不可欠のものです。今回は、これまで行われて来た名簿業者に作成を依頼せず、全て同窓会事務局が手作りで準備したものです。事務局長は、

準備作業中に見つかった諸問題を教訓として、次回以降、さらに充実した名簿を作成して行きたいと述べ、了承されました。次いで、会計と監査両報告が行われ、拍手で了承されました。

次は、最後の役員改選。規約により、当同窓会の役員任期は2年と定められており、今年が改選機に当たります。席上、事務局長から、渡辺良三会長(4期生)及川潔副会長(4期生)、菅野剛造事務局長(1期生)、藤島忠義監査(2期生)の退任と、齊藤裕志新会長(5期生)を初め、東京支部、札幌支部、西日本支部の支部長を新たに副会長とする新役員の顔触れが紹介されました。新しい時代へ対応するために若返りが必要との趣旨が述べられ、参加者一同拍手で承認致しました。渡辺会長は会長として4期8年、菅野事務局長は事務局長として35年間の活動にピリオドを打ちました。また及川副会長、藤島監査のお2人も、同窓会草創期からの役員でしたが、今総会をもって役員活動を終了しました。

この後、盛大に懇親会が行われ、20時過ぎ、余韻を残しながら散会致しました。

なお、新役員は次の通り(数字は卒業回数)。

～次ページに続く～

凛とした態度で 会長職をつとめたい

函館ラ・サール高校
同窓会 会長

齊藤裕志(5期)



残暑の候、同窓生の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

過日8月9日に開催されました同総会総会において、渡辺良三会長よりバトンを受け、第12代の会長に就任することになりました。いまだ未熟者ですが、何卒、宜しくお願い申し上げます。

昭和35年に創立された本学園も1万人余の卒業生を世に送り出すまでになり、今年で43年目を迎えております。この間、国内外のあらゆる分野で多くの同窓生が活躍されていることは既にご承知のことと思います。

一方、兄弟校であります鹿児島ラ・サール高校は3年前に50周年を迎え、私も記念式典に参加いたしました。同総会全体のまとまりや、更に、同窓生1人ひとりの母校に対する熱き思いに感動した記憶があります。

近年、本同窓会にも、札幌、東京、西日本の3支部が誕生し、各地で、この3支部が中心になり活発な同総会活動をしております。支部の充実、更には、学園側との協力のもと、広報活動を活発にしていくことが、同総会の発展につながるものと確信しております。ご協力をあわせてお願い申し上げます。

最後になりましたが、4期8年間にわたり、その卓越した指導力で本会の発展に寄与した渡辺良三会長、そして、1期生として同総会発足当時より事務局全般をまとめて下さいました菅野剛造事務局長に心よりお礼を申し上げ、就任のご挨拶といたします。



会 長 齊藤 裕志 (5=前副会長)
 副会長 佐古 一文 (2)
 佐藤 友康 (12)
 浅野 良二 (6)
 八日市和広 (20=前監査)
 紀国 正幸 (5=新)
 富永 雅己
 (7=札幌支部長=新)
 菅原 宏之
 (1=東京支部長=新)
 藪越 英昭
 (4=西日本支部長=新)
 事務局 長 清水 昌明
 (14=前事務局次長)
 事務局次長 川村 和男
 (24=前事務局長)
 事務局員 田山 伸也 (31)
 会 計 品田 義雄 (15)
 十文字正樹 (26)
 監 査 島本 肇 (8=新)
 成沢 茂 (15=新)

東京同窓会 第2回総会

恩師・谷口先生が講演、参加会員を魅了

去る4月19日(土)午後3時、東京都中央区のホテルで、第2回函館ラ・サール高校東京同窓会(東京支部)総会が開かれ、約200人の会員が参加しました。今回総会の目玉は、1960年の本校開校から6年間、国語の教師として教鞭をとられた現・岐阜女子大学教授の谷口巖先生の講演です。

総会前の慌ただしい時間帯でしたが、谷口先生は「文学部の行方」と題して、ユーモアたっぷり話されました。その語り口に会員は魅了され、瞬く間の30分でした。

直ちに総会に移行し、菅原会長(1期生)が、「活動も実質2年目に入り、確かな手応えが感じられようになった。こうした流れを大切に、会員の多様なニーズに応えられるように努力したい」と挨拶

しました。物故者への黙祷、来賓挨拶の後、14年度事業活動報告、決算報告、予算案、会則改訂案などが審議されました。この後、席を別室に移して、楽しい懇親会が始まりました。同窓会の意義は会員相互の親和ですが、そのことを証明するように、懇親会は和気あいの雰囲気で行われ、来年の再会を約して、約2時間後、散会しました。

卒業40年の節目 1期生に慶事2題

吉沢慶信氏が北海道副知事に、同じく
菊池育夫氏は北海道新聞社長に就任

今年(2003年)は函館ラ・サール高校にとって、極めて意義深い年です。今から40年前の1963(昭和38)年2月、第1期生146名が卒業しました。即ち、今年は第1期生卒業40年の節目にあたります。

鹿児島には既にラ・サール学園が存在していましたが、函館では、その名を聞くことさえなかった1960(昭和35)年、第1期生の高校生活は不安と期待の中でスタートしました。学校作りの苦勞も、青春の1ページであり、今や楽しい思い出となった1期生は話しています。そうした苦勞の数々の上に、今の母校の繁栄

があることを忘れてはなりません。

そうした1期生にとりまして節目の年に、1期生に関わる2つの祝い事がありました。

1つは、道庁勤務(経済部長)の1期生・吉沢慶信さんが、春の知事選後、高橋道政の副知事に任命されたことです。本校出身者の道副知事就任は、1995(平成7)年の田村政志さん(4期)に次いで2人目ですが、田村さんは自治省(当時)からの出向で、道庁生え抜きとしては、今回の吉沢氏が初めてです。



吉沢慶信さん・菊池育夫さんを囲む集りに集まった1期のみなさん

もうひとつは、北海道新聞勤務(編集局長)の1期生・菊池育夫さんが北海道新聞代表取締役社長に就任したことです。

去る、6月28日、午後6時より、札幌市内のホテルにおいて、2人の慶事を祝う同窓会有志による会が催され、約180人の同窓生が道内外からかけつけました。お二方とも感無量の面持ちで、祝福を受けておりました。

同窓生から

今年は、函館ラ・サール高校第1期生が卒業して、満40年の記念すべき年です。そこで、今号の「同窓生から」は、主として第1期生の方々より寄せていただきました。

雑 感

1期 吉沢慶信



母校の函館ラ・サール高校を卒業したのは、もう40年も前のことである。時の流れの早さには、いつも驚かされる。

若い頃には、仕事にも遊びにも追われ、仲々、周囲を見渡す余裕もないものだが、

相応の年代になると郷愁の思いも募ってくる。

そこで昔の友との出会いが楽しみとなる。時には、何人かの友と会うのだが、たちまち、若かりし昔にタイムスリップする。日吉の丘も、40年前には、校舎以外は何もなかった、といった話に花が咲く。やはり、友は良いものだ。

今年の同窓会には出席できそうにないけれど、これからもずっとつき合っていきたい仲間なのだ、と思うこの頃である。(北海道副知事)

第三回 函館ラ・サール高校東京同窓会 総会



我が誇り

1期 吉田淳志

昭和35年の春、私は緑なす黒髪をもって学生服に身を包み、まぎれもなく新校舎の前に凛々として立っていた。玄関も教室も体育館も、そして先生も生徒も、すべてが皆真新しい香りを醸し出していた。



ちばてつやのマンガ「ハリスの疾風（かぜ）」を知っているのは40代半ば以降

の方々でしょう。強い番長に立ち向かい、いつも明るく、いい加減なことをしては周りにいつも迷惑をかける主人公石田国松。それを陰になり日向になり助け、そっと見守るヌク園長先生。舞台がハリス学園。これが「ハリスの疾風」です。そんなのとイメージをダブらせて函館ラ・サール高校に入ったのが30年余り前です。

30年余り経ったら、子は同じ高校に入り、はや3年生。すべてが大きく変わり、比較できるものではないのは頭ではわかっていますが、気持ちが勝手に比べ始めます。まず、格好。今は運動靴を履いています。体育の授業かと思ってしまう。新陳代謝が激しい時期だけに、足が蒸れるだろうなあ、でも自由な格好だとだらしがないことになるのかなあ、なんて考えます。キソクに、靴のかかどを踏むな、というのがあります。そんなもの一言、言えば済むし、靴が良く傷むなら、スポンサーである親が文句のひとつも言えればいいと思います。一方、そこまで決めないと生活できない生徒が増えているのかと感じました。たまたま、同窓会の会合で学校に行っても、少々覇気がないものの、そんなにだらしがないとは思いませんでした。

今まで2年間、進学状況などろくに見ませんでした。今年よくみたら、昔とはかなり違っているのに驚きました。国公立の医学部に進む子がとても少なくなっているのです。本校は、医学部への予備校ではなく高校ですから、必ずしも医学部へ進学者が多くなければならないわけではありませんが、随分少なくなったなあというのが実感です。

今でも北海道が一つの行政単位として存在し続け、すべてが札幌中心となり、函館は、北海道の玄関と言われなくなり久しくなりますが、御神輿を担ぐのではなく、ぶら下がっているような、おまけと言ってもグリコのおまけの様に求められるのではない、ただついているだけと言った感がある街に成り下がってしまっている。札幌だけが全てを担うことになっています。そのためでしょう、この30年の間に、地方の大都会札幌は色々な特色を持つ学校が次々に出来、それぞれ個性を放っており、札幌やそれより遠い所から札幌を越えて我がラ・サールに子供をよ



そんな中、当時の日吉町、花園町地区は街づくりの途中であり、産業道路は、雨が降ったり雪解けの後はずぐ泥濘み、荷馬車が深い轍を残し、馬は喘ぎながら引いていた。途中、細い道を右に折れ、戸井線（今はサイクリングロードになっているらしい）の陸橋を過ぎると一面畑で、何件かの農家が点在する。やや行くと、新校舎は新緑ののどかな田園風景の中のアクセサリ一の様その全貌を現す。

教室からは函館市街が望め、函館山は手に取るように身近にあった。授業中、外をボーッと眺めていて良く叱られたものである。グラウンドはまだ整備されておらず、ただの空地の様を呈していたため、晴れた日の体育の授業は、重いローラー掛けから始まった。疲れて、「ちょっと休憩」と云ってトウキビ畑の中へESCAPEした途端、裸馬の鼻づらと出くわしびっくり仰天した事も昨日の様に蘇る。

卒業して早や40年、正に「光陰矢の如し」である。その後、校舎は新しく建て替えられ、併設中学校も出来た。学校界隈の街並みもきれいに整備され、当時の面影はない。しかし、ラ・サールスピリッツを持った後輩達の各分野での活躍を目にするにあたり、我が母校を誇りに思うのは私だけではないだろう。

当時の同級生達と未だしばしば盃を交わすことができるのは私の人生の中の貴重な財産のひとつである。

盃を重ねる毎に、「今の若い者は……」等と口だけは意気軒昂であるが、巷間では老人扱いされ、頭は白く、そしてこよなく薄く、腹は出、時前の歯は風前の灯火となり、目は遠く、長年の不摂生から尻の調子もいまいちである。そこで女房に頂いた俗名は「吉田齒自痔」と相成った。がんばれ！ラ・サールボーイ達よ。

(税理士)

同 窓 会

1期 志村 智雄



4月19日に、東京でのラ・サール高校同窓会が盛大に開かれた。40年の歳月を経て、僅か2回目である。正確に言えば、10年前に1度似たような集まりがあったので3回目ということになる。今後は継続して毎年開催されることを願わずにいられない。

ところで、我々1期生は、来年、いよ

いよ還暦を迎える。世間から、黄昏とか濡れ落ち葉とか有難迷惑な称号を賜りながら、確かに人生の終章の準備段階にかりつつあることを認めざるを得ない。

会社勤めの方々は今もうじき職場を退き、年金生活を送って、第2の人生を歩むことになるだろうし、独立した職業人は後継者を誰にするか、死ぬまで己が頑張るかの選択の時を迫られるだろう。私も俳優として、今後どうするかと考え、精神と肉体が健康である限り、役者の活動を続けることを願っている。

さて、近頃しばしば各学校の同窓会の誘いを受け、また、出席の機会も得ている。私が卒業した早稲田大学は毎年秋に、田無で寮生活を送った者たちでの同窓会があり、その他を含め、この種の集まりの多さにマンモス大学の成せる業かと感心する。

中学の同窓会は銀座で初夏に年1回は集まっているらしく、案内が来る。仕事で地方へ巡演していない限り出席するようにはしているが、残念ながら、5年に1回のスタンスでの出席である。小学校は廃校に伴い、昨年、第1回の同窓会をもった。今後、続けて同窓会をもつらしい。

ラ・サール高校の方は、一昨年当時から、函館の1期生と鹿児島ラ・サール12期生が同期という関係から、互いに親交を深め、行きつ戻りつと交流が広がりつつある。

私自身も鹿児島市内で鹿児島ラ・サールの12期生に接し、今年7月に鹿児島市での「天平の躉」（井上靖・作）公演への観劇依頼をし、また、初めての出会いにも拘わらず大歓迎を受けた。「天平の躉」は1,250年前、遣唐船に乗っていた鑑真和上が、やがて奈良の都で唐招提寺を建立するまでの物語である。

名古屋での鹿児島ラ・サール同窓会には、名古屋界隈に住む函館ラ・サールの同窓生共々、初めて出席した。現生徒の母親達が出席していたのには今までにない様式だったので驚かされたが、いずれも皆々がラ・サール愛に燃えていて、その熱気には、終始圧倒され放しであった。私たち函館組が大いに学ぶべきは、彼らの「ラ・サール愛」か。

ここで、私の宣伝をひとつ。今年9月に「銃口」（三浦綾子最後の小説）で道内各地を公演し、来年は「天平の躉」で、これまた道内を巡演するつもりである。私も勿論、出演参加するが、函館ラ・サール同窓生が観劇して下さり、また、互いの交流の場にして活用して下されば、大いに会場が盛り上がると思うのだが。

(俳優・前進座)

こす親が減っているようです。そればかりではなく、函館からも結構札幌へやっっているようでもあります。

まわりの同窓生の話聞いても、私のように深く考えずに「まあ、函館ラ・サールにやっとならば何とかなるだろう」とか、「昔良かったから、やってみよう」とかで我が母校によこす方もあり、一方、様々な学校の特色と自分の子の性格や将来などを検討し、他校へやる方々もいらっしやるようです。

全国的に見て、少し進学ができ、自由な雰囲気だなどと思われるところで子供を勉強させたいと、私は思っております。例えどんなことをしようとも、今高3に在籍している息子が卒業する前に希望するようにはならないでしょうが、少しでも近づいて欲しいものです。今、海のものとも山のものともわからぬ小学校1年の息子が、適齢期になったとき、やっぱり函館ラ・サールに行きたいと息子が考え、私もそう思える母校になって欲しいと思っています。

そのため、本当に小さな力ですが、「石田国松」の如く、へこたれずに動いて動いて、しゃべって、先生方には迷惑でしょうが、今一度我母校を進学校と呼ばれても恥ずかしくない学校にしたいと、働きかけを続けようと思っております。そしてまた、同窓生の子供たちもラ・サールファミリーの輪に加わってもらい、一層この輪が大きく膨らむことを願ってやみません。

同窓会会報に寄せて



29期 佐藤 大介

29回生が函館の学舎を後にして12年になる。1980年代から90年代をまたいだ高校時代。昭和が終焉し、東西ドイツの壁が壊れ、バブル経済の絶頂と凋落が交錯した激動の時代。そして、卒業を迎えた91年、巷にはバブルの残滓が漂っていた。

寮では公衆電話の前に列ができ、届けられた手紙に、書き手の顔を思う浮かべた。冬の教室では石炭ストーブが暖を放ち、木板の廊下を運動靴やサンダルを履いた生徒たちが行き交った。卒業後に思いを馳せての、精いっぱい背伸び。それぞれが吸った時代の空気は、確かな質感をもって体に染み着いているはずだ。

だが、それらは確実に過去になりつつある。携帯電話やパソコンが生活にどっしりと根を下ろし、多感な時期を過ぎたピンク色の木造校舎も、今はない。一

方で、仕事や家庭といったリアルな問題が浮かび上がってくる。十代から三十代になった現実が、そこにはある。

そんな時、ふと立ち止まって「あの頃」を見つめるのは、決して後ろ向きじゃないはずだ。久しぶりに函館に集い、姿を変えた校舎、寮、そして先生たちに出会い、自分の吸った空気を思い出す。そし

て、卒業後、様々な道を歩んでいる旧友たちと語らうことは、これからの長い道程を歩くうえで、強力なカンフル剤になると思っている。

幹事一同、一人でも多くの皆さんに函館でお会いできることを、心から楽しみにしています。

恩 師 よ り

真夏の鶏舎とブラザー



旧職員 遊佐 悦大

二十数年も昔の真夏、友人と2人でNY見物の足を延長し、すぐ目の前にあるカナダのモンリオールに、懐かしきローラン先生（初代の校長）やアドリアン先生（初代副校長）と再会すべく北上しました。事前に連絡をとってあったので、空港にアドリアン先生が出迎えてくれました。早速修道院まで直行し、旅装を解きました。

そこには十数人のブラザーがおられ、とても快い歓迎をうけました。同行の友人は、修道院関係の仕事を長い間やっていたとのことで、ブラザーとは昵懇の間柄で、5日間二人で世話になりました。市内の見物はもちろんのこと、ケベックまでのドライブも堪能しました。

広々とした、幅広いハイウェイでは120キロほどで安全運転するアドリアン先生を無理にけしかけ、150キロ以上も速度をあげてもらい、ゾクゾクと快感に浸ったものでした。

修道院の周囲は広大な農地で、十勝平野の山荘にいるかのような感覚にとらわれました。10棟以上もあった長い鶏舎の壮観なこと、ここは話の種に覗いてみよ

うと、足を踏み入れたとたんに、鶏糞の強烈な匂いに圧倒されたのでした。とても鶏舎の見物どころではなく、早々に退散したのですが、そんな真夏の鶏舎の中で、黙々とブラザーさんが仕事しておられたのでした。その途端、のんびりと観光気分だけでお世話になっていた自分が恥ずかしくなって、強烈なショックを受けたものです。このようなブラザーのご苦勞の結晶として、日本のラ・サール会に活動資金が送られてくることを、迂闊にも実感としてもっていなかったのです。この拙文を読んでくれている諸君にも、想像のつかない話でしょう。ミッションスクールというものは、どこでもこのような善意の上にあることを知るべきでありましょう。人間の常として、自分の功績を吹聴したくなる下品な世界とは次元が違いすぎます。LSに学んだ者として、心に留めてくれれば拙文の目的は達せられる次第です。諸子のご健闘をいも祈念している爺さんがひとりいることとあわせて、ね。



毎日、特別養護老人ホームで、こんな奉仕活動をしています

支 部 だ よ り

札幌支部活動状況



札幌支部長

宮永 雅己（7期）

平成3年11月に、アンリ・ラクロア校長を迎えて、札幌支部同窓会として90名の参加にて開催して以来、なかなか支部を立ち上げるのに苦勞しておりましたが、平成7年6月に4期生の田村政志さんが北海道

副知事に就任され、その祝う会を6月23日ホテルアルファ・サッポロにて、恩師2名（遊佐悦大先生、中越讓先生）と1期生～14期生まで、総勢108名の出席にて開催したことを契機として、坂丈敏氏（4期生）を初代会長として、函館ラ・サール高等学校同窓会札幌支部として設立をみることとなりました。2代目会長佐藤正知氏（5期生）、3代目会長石原観氏（6期生）を経て、現在、4代目の会長を務めさせていただいております。

設立以来、毎年1回、総会、研修会、懇親会という形で開催をしております。特に平成12年(2000年)は、函館ラ・サール創立40周年、加えて、ラ・サール修道会の創立者聖ラ・サールにカトリック教会から「聖人」—Saintの称号が与えられてから100年(1900年5月14日)に当たる記念すべき年ということで、9月1日に「ラ・サールアン北海道イン札幌ミレニアム特別同窓会」と銘うって盛大に開催いたしました。

本年からは、札幌支部同窓会の開催日を9月の第2土曜日に固定して開催することを幹事会にて決定し、今年は、

- ・9月13日(土) 17時30分より
- ・ノースシティホテル

(札幌市中央区南9条西1丁目)
TEL 011-512-4433

にて開催する運びとなっております。今回の担当幹事は、10期・20期・30期の同窓生となっております。

西日本支部からの近況報告



西日本支部長

藪越 英昭 (4期)

今年も同窓会が近づいて参りました。月日が経つのが大変早いもので、今回第5回目の同窓会を迎えることとなります。この同窓会を通じてお知り合いになった先輩、同期、後輩の絆の深さ、大切さをしみじみと感じている今日この頃です。昨年の同窓会終了後の2次会では趣味の話が話題になり、とりわけゴルフ談議に花が咲きました。4期生の佐藤美樹氏のメンバーコースである亀岡スポーツ振興GCでの月1回のゴルフが定例化しています。

メンバーは6期阿部邦美、9期佐藤俊雄、9期濱岡睦浩、そして佐藤氏と私です。仕事でのストレス解消、健康増進のためにも利害関係のないゴルフは大変楽しいスポーツです。メンバーが多くなれば同窓会コンペも企画していきたいと考えております。

いよいよ9月7日(日)第5回目の西日本支部同窓会を昨年同様大津の琵琶湖ホテルにて開催いたします。

“出会い”そして“感動”を西日本支部のモットーにしております。同窓生の皆様におかれましては、同期の方々に積極的な連絡をお願いいたします。今年も昨年以上に新しいメンバーがご参加していただくことを期待しております。

建学の精神である「ファミリースピリット」で輪と和を広げていきましょう。

支部雑感

十勝支部長 後藤 治行 (12期)

長男をラ・サールに入学させてから云々、子供は卒業しても親は留年または再入学。こんな仲間が十勝支部に増えています。今年は18名の新しい仲間が入り、57家族の所帯となりました。支部長以下26名と約半数が役員となり、とても密度の濃い活動(懇親)をしております。春の総会、夏の移動父母会、秋のキックアウトパーティは子供を函館に送り出した親の会の本領が発揮され、毎度25時まで盛況です。自立した子供を育てるために函館に出したと思っていたら、実は親の自立を子供が望んでいたのかもしれない。

私も30年ほど前にラ・サールに入学したのですが、親がこんなに熱心に、そして楽しんで子供を送り出していることに驚きと喜びを実感しています。親が子供を思う気持ちはこのように続いてゆくのだと思います。この一年、そのエネルギーを束ね、本校や本部PTAと共に明日へのエネルギーに変換する手助けができればと思います。

おかさん・おとうさん〔中等部〕 パワー炸裂

PTA十勝支部 副支部長 富樫 義彦

新入生父母歓迎会時期を迎え、十勝支部においても、去る4月29日、本校よりアンドレ・ラベル校長先生、品田総務部長ならびに清水寮頭3氏をお迎えし盛大に開催。

1次会においては、どの支部も同様と思いますが、少子化の進む中、はじめてわが子を遠方に離れた親としての不安な様子を語り合いながら、また、学校・寮での様子を先生方から探りながら酒を酌み交わす。スピーチを重ねる度に冗談も混じり、雰囲気にも慣れ、段々と緊張もほぐれ、予定していた2時30分という時間もあっという間に経過。

子供たちを送り出した親たちの集い。当然のごとく2次会・3次会へ。1次会の中では言葉を選びながら、かつ、丁寧語を使っていた親たちと寮頭との関係が何時しか全くの無礼講。飲めば飲むほど、唄えば唄うほど、接近度合いは密着度を増してゆく。「今日は歌いながら、おかあさん全員と踊りきらなければ終わらないゾー」(ダレ〜?)時間が経てば経つほど、上の顔と下の顔が仲良くなってゆく私(我々)。アルコール濃度が増せば

2003年版 同窓会会員名簿発刊

7月下旬、2003年版・函館ラ・サール高校同窓会会員名簿が完成しました。同窓会会員名簿は5年に1度、発刊されることになっており、今年が発刊年に当たります。

この名簿は、いわゆる名簿業者の手を一切借りず、全て同窓会事務局が手作りで仕上げたものです。

事前にご購入の是非を確認しましたが、改めて購入を希望する方は、多少、

残部がありますので、事務局にご連絡下さい。

(TEL0138-52-0365)



【同窓会会員
名簿2003】

A4判、348頁
価格：4,000円

増すほど、呑んで歌って、更にパワーアップして行くお母さんたち。函館にラ・サール高等学校がある限り、このPTA十勝支部もパワフルでエネルギッシュなメンバーに引き継がれ、安泰と感じた冷たい春雨の降る一夜でした。(おやすみなさ〜い え、もう一軒行くんですか?もうすぐ夜が明ける)

小樽支部近況報告

小樽支部 幹事 戸田 俊裕 (14期)

旧き良き建築物や老舗が建ち並ぶ『ロマンの街、小樽』。

千歳空港から車で約1時間。

夏はマリンスポーツ、冬はスキー、スノーボード。一年を通して楽しめる街です。観光名所も盛り沢山。美味しいお寿司も…。

そんな風土に育てられた『小樽っこ』を中心に、年2〜3回集まる会を催しています。

現在、会員約30名。4期の小田柿さん、旭さんを筆頭に、卒業期に関係なく、和やかな親睦を深める仲間の集まりです。

小樽に関係のある卒業生の方、この会報をご覧になり、小樽にチョッピリ興味のある方、お気軽に参加して下さい。

(小樽メールアドレス：)

lasalle_otaru@yahoo.co.jp)

大学別合格者数

国立大学			国立大学			国立大学			国立大学		
15年			15年			15年			15年		
現	浪		現	浪		現	浪		現	浪	
北海道大	10	10	弘前大	2	4	筑波大	1	1	富山医薬大	0	2
(文系)	2	2	岩手大	1	0	千葉大	1	1	山重医大	0	1
(理系)	8	7	東北大	7	3	埼玉大	0	1	根重医大	0	2
(医系)	0	1	(文系)	4	2	東京大	3	3	島根大	0	1
北海道大	2	2	(理系)	3	1	東工大	1	1	広島大	0	1
工業大	2	1	秋田大	0	1	京大	0	1	山高知大	1	0
商大	1	1	山茨福	5	0	一橋大	0	1	九州大	1	0
畜産大	0	1	福島大	1	0	国立	2	2			
産科大	2	0		0	1	湯立	1	2			
公立大学			公立大学			公立大学			大学校		
15年			15年			15年			15年		
現	浪		現	浪		現	浪		現	浪	
札幌医科大学	2	0	都立大	0	2	静岡県立大	0	1	防衛大	0	2
釧路公立大	1	1	横浜市立大	1	0	はこだて未来大	1	0	防衛医大	0	1
高崎経大	1	0	都留文大	1	0						
私立大学			私立大学			私立大学			私立大学		
15年			15年			15年			15年		
現	浪		現	浪		現	浪		現	浪	
酪農学園大	0	2	北里大	0	3	東京造形大	0	1	立教大	1	3
北海道医療大	1	10	杏林大	0	3	東京電機大	1	0	早稲田大	8	12
北海学園大	4	7	応義塾大	6	7	東京農業大	0	1	東健科大	1	0
北星学園大	0	1	国士舘大	0	1	東京理科大学	0	3	神奈川工科大	0	1
北海道工業大	0	1	駒込大	0	1	東京理科大学	5	15	聖マリアンナ医科学大	0	1
北海道薬科大	0	3	際基工業大	0	1	東洋大	0	4	鈴木鹿医療科大	1	0
札幌医科大学	1	2	順天智城修大	2	1	日本歯科大学	1	1	南山社大	1	5
札幌医科大学	3	0	上野大	0	1	日本獣医大	3	2	立命館大	2	0
東北薬学大	2	2	成専高千和大	1	3	武蔵野大	1	0	関西工業大	2	6
東北薬学大	3	1	昭和中帝東大	1	0	法政大	0	1	金沢工業大	0	1
北文化学園大	2	0	昭和中帝東大	1	1	武蔵野大	0	1	近畿工業大	0	2
協栄医科大	0	1	中央大	1	1	法政大	3	4	ユタ州立大	0	2
美林大	1	0	帝東大	8	4	武蔵工業大	0	2	カリフォルニア州立大	1	0
青山学院大	2	2	東大	0	1	明治大	3	4	サウスアラバマ州立大	1	0
立正大	0	2	玉医科大	1	0	明治大	0	1	の	1	0
学習院大	1	1		0	1	明大	1	0		0	1

2003年度 高体連の記録

バスケットボール部

地区大会 2回戦 対工業 敗退 68-90

バレーボール部

地区大会 第3位

サッカー部

地区大会 2回戦 対工業 敗退 0-2

ラグビー部

地区大会 対工業 敗退 12-34

ハンドボール部

地区大会 予選リーグ 敗退

バトミントン部

地区大会団体戦
2回戦 対工業 敗退 0-3

硬式テニス部

地区大会 団体3位

水泳部

地区大会 男子団体総合 3位
50m自由形 1位 下山 脩平
100m自由形 1位 下山 脩平

陸上部

地区大会
5000m 2位 村田
3000m障害 2位 梶原
走高跳 2位 中島

卓球部

地区大会 団体 Cブロック
決勝 対工業 2-3

相撲部

地区大会 団体 3位
全道大会75kg未満級 準優勝 千葉 亮滋

剣道部

地区大会 団体 準優勝
全道大会 ベスト8

軟式テニス部

地区大会団体 2位

体操部

地区大会個人2部総合 1位 石田 篤寛
全道大会個人2部総合 6位 石田 篤寛

柔道部

地区大会
団体2次トーナメント 1回戦敗退

ワンダーフォーゲル部

地区大会 優勝

アーチェリー部

春季全道大会 団体戦 6位

■高文連の記録

囲碁部

全道大会 個人 優勝 宮嶋 昇平

事務局だより

同窓会では同窓会行事はもちろん、母校及び支部行事にも積極的に役員を派遣しています。その中から、この1年間の主な参加行事をお知らせします。

◆2002年

8月10日(土) 同窓会総会

9月7日(土) 札幌支部総会

及川副会長、清水事務局次長

10月25日(金) 奨学生選考会

10月30日(水) 奨学金伝達式

渡辺会長

11月2日(土) 死者の日の集い

渡辺会長

◆2003年

2月7日(水) 同窓会入会式

渡辺会長他

2月10日(月) 卒業式

齊藤副会長

4月2日(水) 入学式

渡辺会長

4月19日(土) 東京支部総会

渡辺会長、菅野事務局長